



ナショナル コミュニケーションシステム

VL-355・VL-356・VL-655・VL-656

取扱説明書

ご使用前にこの説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。



松下通信工業株式会社

このたびは、ナショナル コミュニケーションシステムをお求めいただきましてありがとうございます。正しくご使用いただくために、この取扱説明書をよくお読みくださいますようお願いいたします。

お願い

次のような場所はさけてください。

- 直射日光、暖房設備、ボイラーなどのために特に温度が上昇する場所。
- 製氷倉庫のように特に温度が下がる場所。
- いちじるしく湿度の高い場所。
- 燐、アンモニア、硫黄、炭素、酸、塵埃、鉄粉、有害ガスなどを特に多く発生する場所。
- 水や薬品類のかかる恐れのある場所。

目次

・ 特長	1
・ 構成	2
・ 通話系統	2
・ 各部の名称	4
・ 使い方	6
・ 取付け方法	9
・ 配線距離と配線数	12
・ 定格	13
・ 配線図	折込付属

■特 長

1. 親機子機の配線は工事の容易な2線式です。
2. 親機3台まで相互間の通話ができます。
3. ドアホンアダプタの中継で、ドアホン子機を3台まで接続することができます。
4. 親機で転送操作を行なうことにより子機相互間や子機と他のグループの親機または子機と通話できます。ただし、ドアホン子機は、親機との通話のみで、転送することはできません。
5. 通話終了後は送受器を置くだけで通話回線が自動復帰します。
6. 親機が通話中の場合でも、ドアホン子機からの呼出音が鳴ります。
7. 秘話方式ですから、通話中他の子機に話しを聞かれることはありません。
8. 子機からの呼び出しは、親機に呼出音と該当する選局表示灯の点灯によって知らせます。
9. 通話中に他の子機から呼び出しがあった場合は該当する選局表示灯が点灯し子機に話中音が出ます。
10. 子機は送受器をあげるだけで親機を呼び出すことができます。
11. 取付けに際して、監督官庁などの許可は必要ありません。

■禁止事項

- ・電源プラグをコンセントにさしたままセットを絶対にあけないでください。
- ・セット、端子、コネクタ等に水などを絶対にかけないでください。
- ・指定以外の端子に電源(A C 100 V)を絶対に接続しないでください。

■お手入れ

ケースの清掃は慎重に行なってください。ケースを清掃されるときは、やわらかい布でからぶきをしてください。汚れがひどいときは、プラスチッククリーナーか洗剤でふき取ります。シンナーなどは絶対にご使用にならないでください。

■ご注意

増設選局部を接続する場合は、親機と増設選局部の総選局数は60局以内にしてください。60局以上の場合、例えば100局になると親機が通話中に、他の局からの呼出す確率が多くなり、相手を待たせることになります。

■構成

ナショナル コミュニケーションシステムは、次の機器により構成されています。

- ・10局親機 VL-355
- ・20局親機 VL-356
- ・20局増設選局部 VL-655
- ・40局増設選局部 VL-656
- ・壁掛形子機 VL-555
- ・卓上形子機 VL-556
- ・ドアホン アダプタ VL-955
- ・ドアホン子機 VL-568、582、583、584、585、586、587、592

各機器の付属品は次の通りです。

VL-355、VL-356

壁掛取付けネジ 1式 取付型紙 1枚

VL-655

壁掛金具 1個 壁掛取付けネジ 1式

接続コード1個 増設金具 1個

VL-656

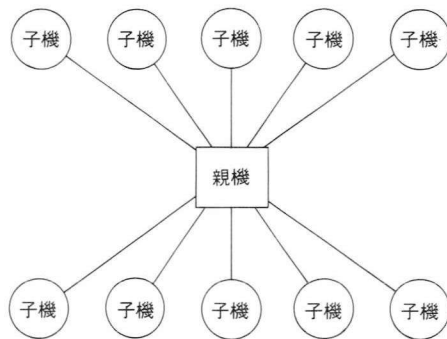
壁掛取付けネジ 1式 接続コード 1個

増設金具 1個 取付型紙 1枚

■通話系統

このナショナル コミュニケーションシステムは、親機、増設選局部、子機、ドアホン子機の組合せにより、いろいろな通話系統ができます。

●親機と子機による組合せ(例)



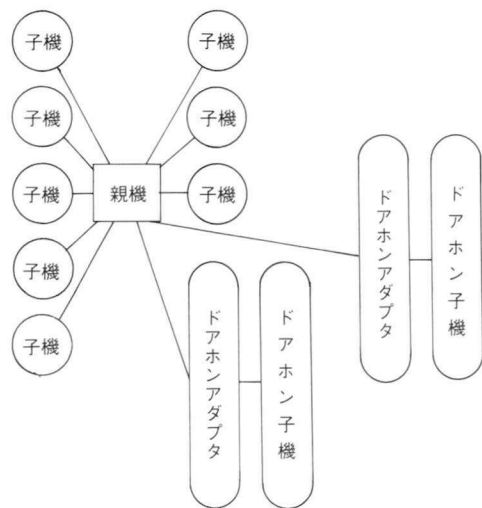
★親機VL-355の場合、子機10台まで接続可能

★親機VL-356の場合、子機20台まで接続可能

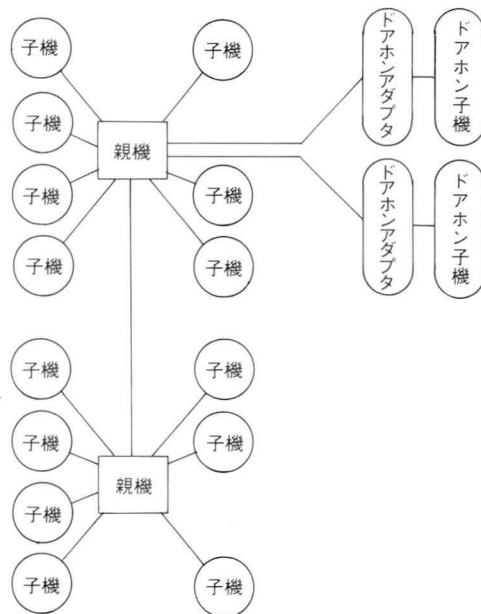
★親機VL-355+増設選局部VL-655の場合、子機30台まで接続可能。

★親機VL-356+増設選局部VL-656の場合、子機60台まで接続可能。

● 親機と子機・ドアホン子機の
組合せ(例)

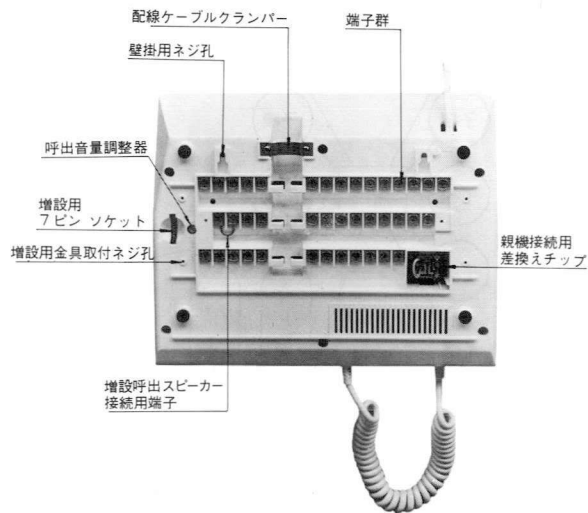


● 親機 2 台による組合せ(例)

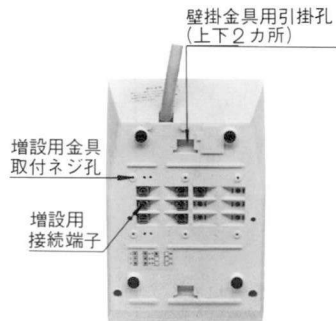
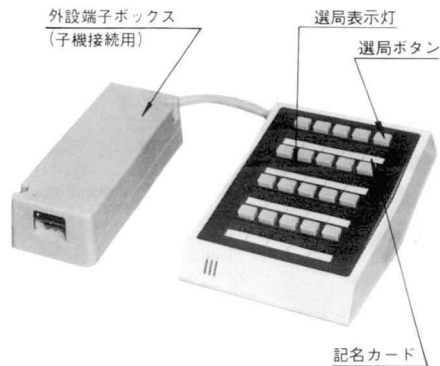


★ドアホン子機は、親機 1 台に対し、3 台まで接続可能。(ただしドアホン子機 1 台にドアホンアダプタ 1 台が必要です)

■各部の名称



20局用親機VL-356



↑↑↑↑



壁掛金具と 7ピン
取付ネジ 接続コード

20局増設選局部 VL-655

40局増設選局部 VL-656



壁掛取付ネジ 増設金具と
20局親機 VL-355 取付ネジ

40局親機 VL-356 20局増設
40局増設選局部 VL-656 選局部
VL-655

20局用増設選局部VL-655

親機、増設選局部の付属品

使いかた

■通話の前に

1. 記名カードの記入方法

- ①記名カードの上のプラスチックカバーの端を写真のように指先で矢印方向に押しと浮き上げます。



- ②続いて、記名カードをとり出し、各番号に相当する相手の名称を記入します。
- ③記入が終わったら、記名カードを先に入れプラスチックカバーをはめ込みます。プラスチックカバーはどちらか一方の端より入れ、あとは他方の端を押し込めば簡単にはめ込めます。

■通話の方法

1. 親機 (VL-355、VL-356) と子機 (VL-555、556) の通話

(1) 親機から子機を呼出して通話する場合

- ①親機の送受器をあげ、選局ボタンを押してください。(この時選局表示灯が点灯)。子機に呼出音(トレモロ断続音)が鳴ると共に、親機にバックトーンが入り、呼出していることを確認できます。



- ②子機の送受器をとりあげると、呼出音は止まりますのですぐ通話ができます。
- ③通話が終わって親機と子機の双方が送受器を置くと、表示灯が消え、親機、子機とも待受けの状態にもどります。

(2) 子機から親機を呼出して通話する場合

- ①子機の送受器をあげると、親機の選局表示灯が点灯し、呼出音(トレモロ断続音)が鳴り、呼出しがかかります。
- ②親機で送受器をとりあげ選局ボタン(表示灯

の点灯している上のボタン)を押すと通話ができます。

- ③通話が終わったら、1-1-③(P6参照)と同じ操作をすれば、親機、子機とも待受けの状態になります。

(3) 親機と例えば子機1番の通話中に、他の子機2番が呼出しをかけた場合

- ①親機の選局ボタン2番の表示灯は点灯しますが呼出音は鳴りません。2番の子機(後からかけた方)には、話中音が出ますから、親機が他の局と通話中であることがわかります。子機1番との通話が終わってから、子機2番と通話します。

(4) 子機どうし(例えば4番と5番)が通話する場合

- ①子機5番は親機に呼出しをかけ、親機の応答があったら、子機4番への転送を依頼します。
- ②親機は子機4番の選局ボタンを押して呼出しをかける。このとき子機5番には話中音が聞えますが、そのままにしてお待ちください。



- ③子機4番より応答があったら、親機のHOLDボタン(ホールドボタン)を押し、次に子機5番の選局ボタンをふたたび押してください。子機5番に子機4番と接続したことを知らせ親機の送受器をもとどおり置きます。
- ※親機の送受器をあげたままの状態では子機4番、子機5番と親機の3者通話を行うことができます。
- ④子機4番と5番の通話が終り、双方が送受器を置くと親機の選局表示灯が消え、親機、子機4番、5番とも待受けの状態になります。

2. 親機(VL-355、VL-356)とドアホン子機の通話

(1) ドアホン子機から親機を呼出して通話する場合

- ① ドアホン子機の呼出しボタンを押すと、親機の選局表示灯が点灯し、呼出音(トレモロ断続音)が鳴り呼出しがかかります。選局表示灯の点灯と呼出音は約20秒続きます。なお、ドアホン子機には呼出音のバックトーンが入ります。
- ② 親機で送受器をとりあげ、選局ボタンを押すとドアホン子機と通話ができます。
- ③ 通話が終了親機の送受器を置くと待受の状態になります。

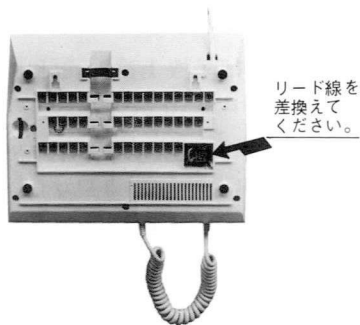
(2) 親機が子機と通話中のときドアホン子機からの呼出しがあった場合

- ① 親機の選局表示灯が点灯し、通話中の親機、子機に小さく呼出音が聞えます。
- ② ドアホン子機と通話するときは上記1)ー②の操作をしてください。

3. 親機(VL-355、VL-356)どうしの通話

親機どうしの通話が必要な場合は事前に親機底

部の切換えリード線を「REMOTE」から「MASTER」のチップに差換えておいてください。(出荷のときは「REMOTE」に接続されています。)



- ① 親機1番からもう一方の親機2番を呼び出して通話する場合は、親機1番の送受器をとりあげ選局ボタン(親機2番用)を押してください。親機2番に呼出音(トレモロ断続音)がでると共に、親機1番にバックトーンが入り呼出していることがわかります。
- ② 親機2番が送受器をあげると呼出音が止まり選局ボタン(親機1番用、点灯中)を押せば通話ができます。
- ③ 通話が終了、親機1番と親機2番の双方が送受器を置くと、待受けの状態になります。

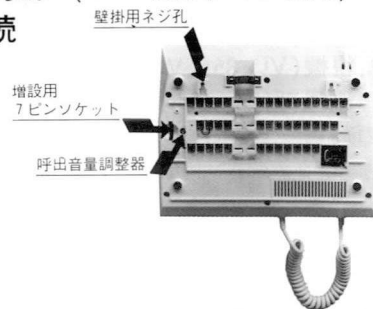
4. 1台の子機と2台の親機(VL-355、VL-356)の通話

- ①子機を送受器を上げると2台の親機の選局表示灯が点灯し呼出音(トレモロ断続音)が出ます。子機には2台の親機からのバックトーンが混って聞えます。
- ②2台の親機のどちらかが送受器を上げ選局ボタンを押すと子機と通話状態になり、同時に片方の親機(送受器を上げなかった親機)の呼出音もとまります。
- ③通話が終り親機と子機の双方が送受器を置くと待受けの状態になります。

★子機からの呼出しで送受器を上げなかった親機の選局表示灯が、うすく点灯していますので一方の親機と子機が話中であることがわかります。

ご注意 2台の親機に接続してある子機は他の子機との通話(転送)はできません。

■親機(VL-355、VL-356)と増設選局部(VL-655、VL-656)の接続



- ①増設選局部を接続する場合は、親機と増設選局部の総選局数は60局以内にしてください。60局以上の場合、例えば100局になると親機が通話中に、他の局からの呼出す確率が多くなり、相手を待たせることになります。
- ②増設選局部に付属している接続コード(7ピンのプラグ)を使用します。
- ③親機の底部にある7ピンのソケットに接続コードのプラグを差込んでください。つづいて接続コードの片方(リード線側)を増設選局部の底部にある端子に接続してください。

ご注意 接続コードの色と底部の指示ラベルの色(番号)を間違えないようにしてください。

- ④接続の後、付属の増設金具とネジ4本で双方の本体を連結してください。

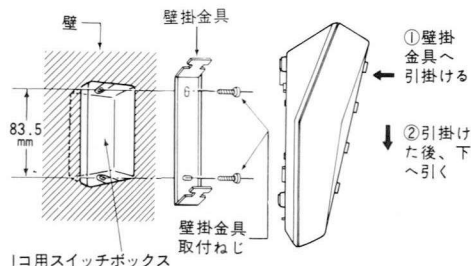
■壁掛として使用する場合

1. 親機(VL-355、VL-356)または40局増設選局部(VL-656)の壁掛

- ①付属の壁掛取付ネジを本体底部の壁掛用ネジ孔(2カ所)の寸法に合せて壁面に取付けます。このとき、ネジの頭と壁面との間隔を4mm程にしてください。(付属の型紙をご利用ください。)
- ②本体底部の壁掛用ネジ孔に取付ネジが2カ所とも合ったことを確認してから、本体を下へ少し引下げて本体ネジ孔の細い部分にかん合させてください。
- ③とりはずしは本体を上へ引上げてください。

2. 20局増設選局部(VL-655)の壁掛

- (1) 1個用スイッチボックスに取付ける場合

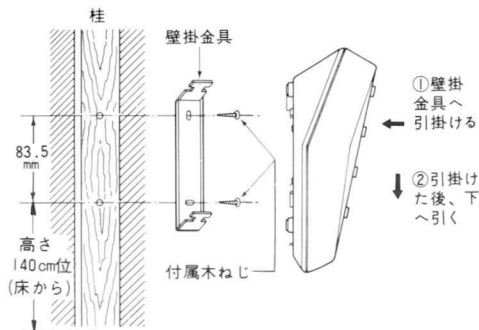


- ①壁掛金具を付属の取付ネジでスイッチボックスに締めつけます。

(注意) 小型1個用スイッチボックスカバーなすには取付けられません。

- ②壁掛金具取付ガイドに壁掛金具を合わせ金具の下方から金具を引掛孔にはめ込み、引き下げてください。

(2) 壁面または柱に取付ける場合



- ①取付けようとする位置の中心に壁掛金具を木ネジで取付けます。
- ②上記(1)–②の手順で引掛孔にはめ込み、引き下げてください。

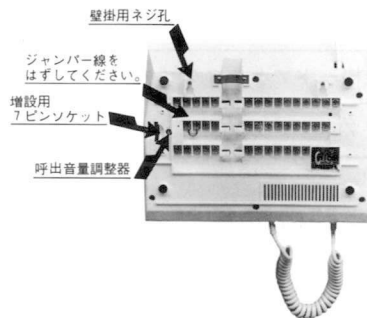
■呼出音量の調整と増設呼出スピーカーの接続方法

1. 呼出音量の調整

- ①親機を設置される場所の周囲騒音に応じて、

子機からの呼出音量を調整します。

- ②親機の底部にある「CALL VOL」をドライバーで廻し、適当な音量に調整します。
左廻し→音量 小 約50ホン (最少)
右廻し→音量 大 約80ホン (最大)



2. 増設呼出スピーカーの接続方法

- ①親機を設置される場所以外で子機からの呼出音を受けたいときに増設呼出スピーカーを使います。(VL-861W 別売)
- ②親機底部の端子番号16番、17番 (ラベル表示番号S)につないであるジャンパー線ははずし、はずしたあとの端子 (16番、17番) にコードを接続してください。
(上の写真を参照してください)

■ 配線距離による線種の選定

機器間	線種 (mm/本) (mm)	0.18 / 12より線 0.65単芯線	0.18 / 20より線 0.8 単芯線
	親機～室内子機		150m
親機～親機		150m	250m
親機～ドアホンアダプタ		40m	60m
ドアホンアダプタ～ドアホン子機		150m	250m

■ 機器間配線数

品名	品番	機器間	品名	品番	配線数
親機	VL-355 VL-356	～	室内子機	VL-555 VL-556	個別2線(無極性)
親機	VL-355 VL-356	～	親機	VL-355 VL-356	個別2線(有極性)
親機	VL-355 VL-356	～	ドアホンアダプタ	VL-955	6線
ドアホンアダプタ	VL-955	～	ドアホン子機	適合機種	2線(無極性)
親機	VL-355 VL-356	～	増設局	VL-655 VL-656	7線(7ピンコード)

■定 格

電 源 電 圧	AC100V 50/60Hz
消 費 電 力	約10W
呼 出 音 量	約80ホン（最大）
呼 出 方 式	トレモロ断続音
通 話 方 式	同時通話
通話出力	ドアホン子機の場合 約40mW
	子機の場合 約1mW
歪 率	10% 以下
S / N	40dB以上
ドアホンからの呼出保持時間	約20秒

外形寸法と重量

	高さmm	巾mm	奥行mm	重量
VL-355	100	266	214	1.6kg
VL-356	100	266	214	1.7kg
VL-655	84	140	214	1.0kg
VL-656	84	266	214	2.0kg

■保証・サービス

この製品には1年の保証がついております。

- ① 保証書は、販売店で発行しますから、必ず「販売店印・保証期間」をご確認のうえよくお読みいただき、大切に保存してください。
- ② 保証期間中、万一故障を生じた場合は、保証書記載事項にもとづき、お求めの販売店で「無償修理」いたします。
- ③ 修理依頼される前に、この取扱説明書をよくお読みください。
- ④ 保証期間後のサービスについては、購入店または、当社指定サービス店にご相談ください。



松下通信工業株式会社・通信システム事業部

〒224 横浜市都筑区佐江戸町600番地 電話(045)932-1231(大代表)

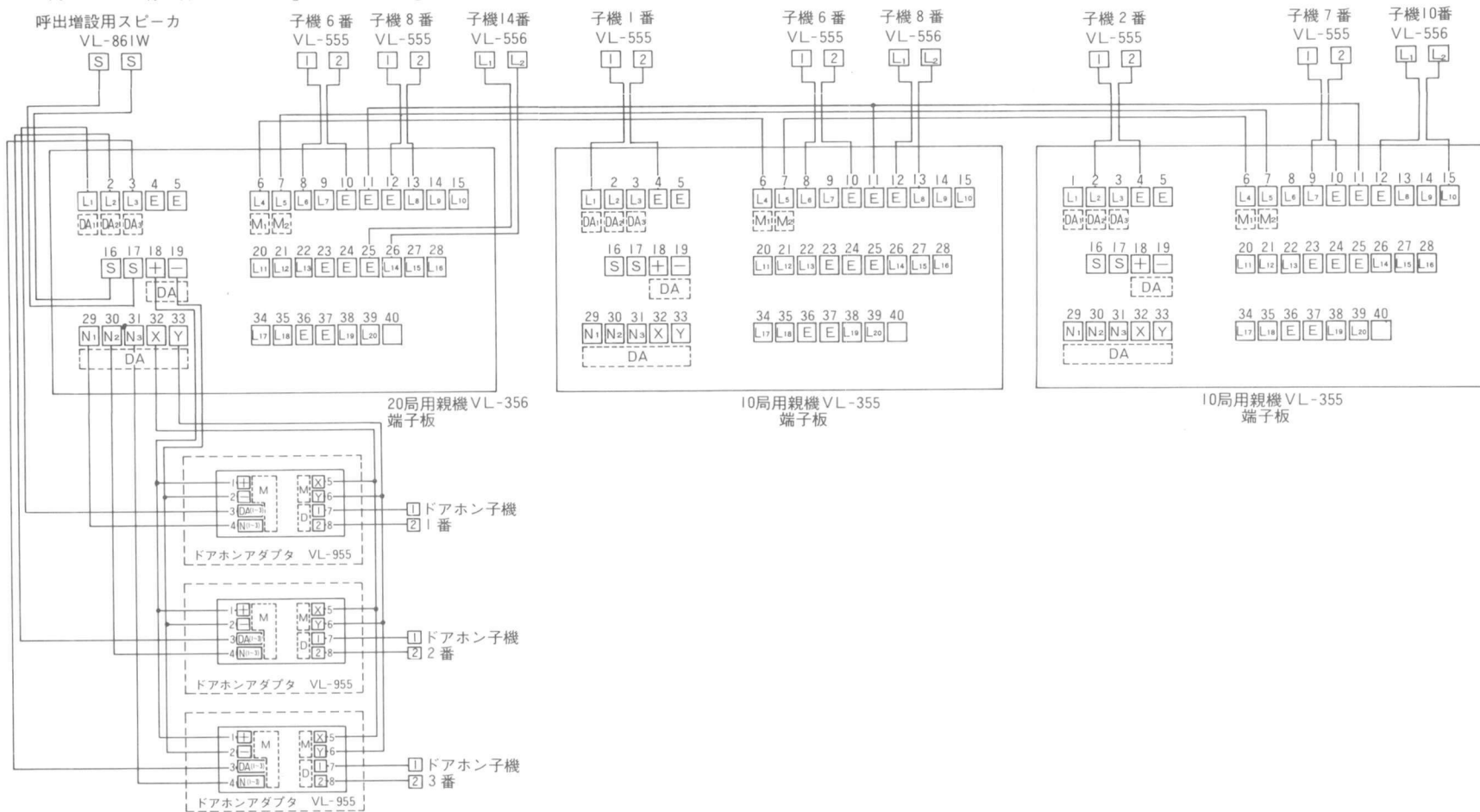
★配線図

■親機3台と子機またはドアホン子機との接続

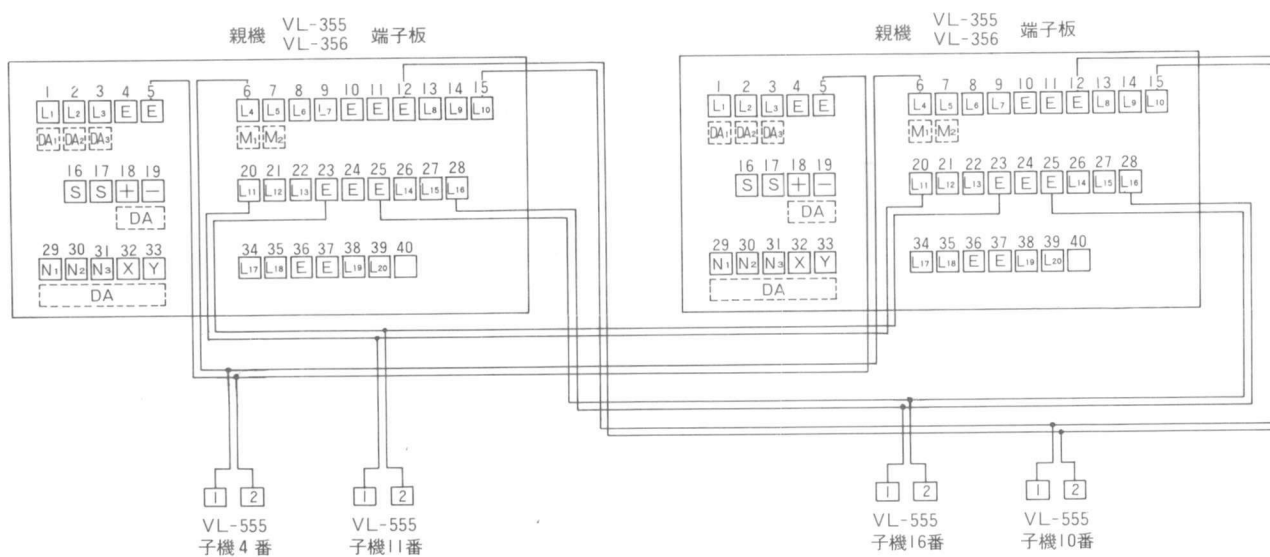
★親機どうしの接続のときは事前に次のことを行なってください。(取扱説明書8ページの写真参照)

1. 底部の切換えリード線4番を「REMOTE」から「MASTER」のチップに差換えてください。
2. 同じくリード線5番を「REMOTE」から「MASTER」のチップに差換えてください。

3. 接続する相手の親機が1台のときはリード線4番を「REMOTE」から「MASTER」のチップに差換え、リード線5番は「REMOTE」のままにしておいてください。

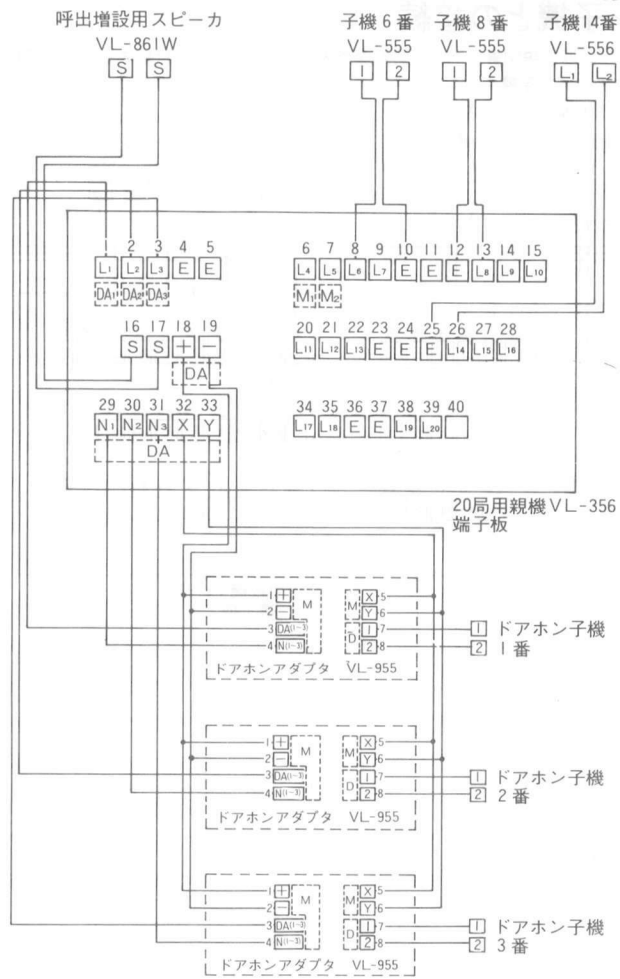


■1台の子機と2台の親機の接続



- 【ご注意】
1. このシステムの場合は親機と子機の接続は極性がありますので間違えないようにしてください。
 2. 2台の親機に接続してある子機は、他の子機との通話(転送)はできません。

■親機と子機またはドアホン子機との接続



■親機と増設選局部との接続

